

# 将来の国際情勢と日本の外交 —20年程度未来のシナリオ・プランナー—

平成23年3月

## は し が き

本報告書は、平成 22 年度に当研究所において実施した研究プロジェクト、「将来の国際情勢と日本の外交—20 年程度未来のシナリオ・プランニング—」の研究成果を取りまとめたものです。

我が国は第二次世界大戦後、日米安保条約によって安全保障を担保することで戦後復興と経済成長を遂げ、経済大国として国際政治における影響力を保持してきました。しかし、2010 年の中国の GDP は日本を上回り、日本は、世界第二の経済大国としての地位を失いました。また、我が国の安全保障の基盤をなしてきた日米同盟についても、普天間基地移設問題に象徴されるように、困難な問題を内包しています。

日本は今後、どのようなアイデンティティと外交戦略をもって、国際社会に向き合っていくべきなのでしょうか。当研究プロジェクトでは、戦後の日本外交を振り返り、20 年程度未来の国際情勢についてシナリオ・プランニングを行うことで、日本のとるべき方向性と政策について提言を行うことを目的としました。

20 年先の日本を取り巻く国際情勢を考えると、対処しなければならない問題群は、次の二つに大別されます。第一の問題群は、パワーバランスの変動です。中国などの新興国の台頭によって、唯一の超大国であるアメリカの影響力が相対的に低下することが予想され、こうしたパワーシフトによって、国際秩序の枠組みが大きく変化すると思われまます。特に、日本が位置する東アジアにおいては、中国の台頭が軍事・経済バランスに一層大きな変動をもたらす中で、安定的な地域秩序をいかに構築し、いかに我が国の安全を保障するかが重要であります。日本の安全保障の基盤である日米同盟についても、大きなパワーシフトに対応した、より有効なあり方を模索することが求められています。

こうした、地政学的な、あるいは、伝統的な安全保障問題を中心とする第一の問題群に対して、第二の問題群は、環境やエネルギーといった、これまで、外交・国際政治の範疇とは考えられてこなかった分野に関するものです。気候変動や資源の流れの変化は、当然、日本の経済や生活に大きな影響を与えますが、何れもグローバルな問題であるため、日本一国で対処することはできず、各国との交渉や協力が不可欠となります。こうしたグローバルな問題に対処する上では、日本の国益を確保すると同時に、解決に向けた世界的な取り組みに資することを両立させなければなりません。その際、日本がこれまで一定の成果を上げてきた技術開発や発展途上国に対する援助を、外交ツールとして有効に活用していくことが重要になると考えられます。

日本はその国際的な立場と地政学的な位置から第一、第二の問題群に同時に対処してい

かなければなりません。本研究プロジェクトは、狭い意味での外交・安全保障の範疇を超えてこれら二つの問題群を総合的に考察し、近未来の国際情勢についてのシナリオ・プランニングと、その中で日本が取るべき戦略について考察・提言を行ったものです。

なお、ここに表明されている見解は全て各執筆者のものであり、当研究所の意見を代表するものではありませんが、本研究成果は、我が国の外交政策研究の向上に必ずや資するものと確信しております。

最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力をいただいた執筆者各位、その過程でご協力いただいた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

平成 23 年 3 月

財団法人 日本国際問題研究所  
理事長 野上 義二

## 研究体制

主 委 員	査	山内 昌之	東京大学大学院総合文化研究科教授	
	員	大野 泉	政策研究大学院大学教授	
		亀山 康子	国立環境研究所 地球環境研究センター 温暖化対策評価研究室 主任研究員	
		鈴木 一人	北海道大学公共政策大学院准教授	
		中山 俊宏	青山学院大学国際政治経済学部教授／ 日本国際問題研究所客員研究員	
		細谷 雄一	慶應義塾大学法学部准教授	
		前田 匡史	国際協力銀行 国際経営企画部長／ 内閣官房参与	
		道下 徳成	政策研究大学院大学准教授	
		宮城 大蔵	上智大学外国語学部国際関係副専攻准教授	
	委員兼幹事		斎木 尚子	日本国際問題研究所副所長兼主任研究員
			下谷内 奈緒	日本国際問題研究所研究員
			西川 賢	日本国際問題研究所研究員
			森山 央朗	日本国際問題研究所研究員
担当助手		鈴木 涼子	日本国際問題研究所研究助手	

# 目 次

## 第1部 20年程度未来の国際情勢（総論）

---

なぜ20年後の世界を展望しなければならないのか？

——「将来の国際情勢と日本の外交」研究会を支えた問題意識——

山内 昌之・中山 俊宏……………1

## 第2部 20年程度未来の国際情勢（各論）

---

第1章 国際秩序の展望—「共通の利益と価値」は可能か— 細谷 雄一……………7

第2章 日本の地域秩序構想 宮城 大蔵……………23

第3章 20年後のアメリカと日米関係—同盟を漂流させないために—

中山 俊宏……………37

第4章 伝統的安全保障 道下 徳成……………51

第5章 日本と環境 亀山 康子……………61

第6章 途上国開発をとりまく戦略的環境と日本の開発協力

——グローバル・シビリアン・パワーをめざして—— 大野 泉……………71

第7章 資源エネルギーから見る戦略的日本外交 前田 匡史……………89

第8章 日本の科学技術政策 鈴木 一人……………99

## 第3部 日本外交への提言

---

将来の国際情勢と日本外交—展望と提言 山内 昌之……………113